

北薩の輝き

良質な教育環境づくりを推進する北薩の教育**明けましておめでとうございます**

北薩教育事務所 所長 尾堂 秀一郎

12月24日、2学期終業式。我が家でも3人の子どもが通知表を持って帰ってきた。それぞれの家庭での過ごし方を思い出しながら、各教科等の評価を眺めた。同時に、担任の先生方からの的確な課題の指摘やあたたかい励ましの言葉に心からありがたく思うことであった。

私自身の小中学校時代を振り返ってみると、多くの先生方にあたたかく育てていただいた。小学校1年の時の先生は、優しく子ども思いの先生だった。3年でも担任をしていただき、将来は学校の先生になりたいという夢をもつきっかけになった先生だった。2年の時の先生は、まじめで几帳面な先生だった。いつも丁寧で分かりやすい授業をされていた。4年の時の先生は、子どもと一緒に取り組んでくれる熱心な先生だった。私が教員になってからも、幾度となく励ましの言葉をいただいた。5年と6年の時は同じ先生に担任をしていただいた。厳しい先生だったが、成人式の後、タイムカプセルを掘り出そうと同級生が母校に集まった際には、すでに退職しておられたが、わざわざ駆けつけてくださった。中学校では、3年間同じ先生が担任だった。数学の先生でとても分かりやすい授業をされていた。受験期には、深夜、勉強を頑張っているか家まで見に来て励ましてくれる先生だった。担任の先生以外にも、理科の面白さを教えてくれた先生や、授業以外で興味深い話をたくさんしてくれた先生、地域に住み、休みの日にも色んな相談に乗ってくれた先生など、たくさんの先生方が思い出される。多くの先生方が、様々な影響を与えてくださったと改めて実感する一方で、果たして、自分は、これまでの教員生活の中で、関わった多くの子どもたちに、何か影響を与えられただろうか（どんな影響を与えられただろうか）、と考えさせられた。

新年を迎え、3学期がスタートした。各学校最上級生は、あと2か月余りで卒業を迎える。それまでの仲間と別れ、新たな生活が待っている。「島立ち」を迎える生徒や、地区外の高校へ進学する生徒も少なくない。この学校（学年・学級）で学べてよかった、この友達や先生と出会えてよかった、と心から思える、そんな3学期を過ごしてほしい。そのために私たち教職員は全力を尽くしたい。そして、子どもたちも、私たち教職員も、また一歩成長して新たな出会い（4月）を迎えたいものである。

北薩地区学力アップ推進会議・オープンサポート教科フォーラム

北薩教育事務所では、毎年、学力アップ推進会議を開催し、学力向上や授業改善に向けた取組を行っています。

今年度は、「社会」、「算数、数学」、「外国語・外国語活動、英語」の3教科に絞り、地区内の小・中・義務教育学校から教頭先生6人、各教科の先生24人の計30人に推進委員をお願いし、「主体的・対話的で深い学びを目指したモデル授業づくり」に取り組みました。

11月26日（金）に、「風テラスあくね」で開催した北薩地区オープンサポート教科フォーラムでは、各部会の研究の視点に基づいた成果を発表し、参加された先生方と活発な協議が行われました。

特に、主体的・対話的な学びにつなげる指導の工夫やICTの効果的な活用について、小学校・中学校それぞれの取組が大変参考になったとの感想を多くいただきました。

また、今年度から新規事業として取組を始めた「コアスクールプロジェクト」について、薩摩川内市立川内南中学校の川畑教諭に事例発表をしていただきました。授業における生徒の学びを見取り、見取った事実を基に協議することで、教員一人一人の授業力の向上につながった取組は大変参考になりました。

最後に、県教育庁義務教育課の森園守指導監に、県全体の児童生徒の学力や学習状況の実態、県の施策や指針を基にした授業改善への取組等について御講話をいただきました。北薩地区の児童生徒一人一人の学びにつながる有意義な研修会となりました。



【学力アップ推進会議：中学校数学部会】



【オープンサポート教科フォーラム】

114人参加：6分科会の成果発表

研究公開の紹介

出水市立出水小学校

令和3年10月29日(金)

確かな読みの力をつけ、自らの考えを意欲的に表現する児童の育成
～文学的文章教材の学びを中心に～

叙述を基に想像して読むことを大切にし、登場人物の気持ちや様子を具体的に想像した理由を考
えさせ、記述させる授業実践
に取り組んでいます。その際、
根拠となる叙述を明確にし、
複数の場面の叙述を相互に
関連付けさせています。この取
組は、文章を正確に理解する
力の育成に繋がる実践です。



薩摩川内市立川内中央中学校

令和3年12月1日(水)

学び合い、高め合う、保健体育指導の実践
～学び合い活動を積極的に取り入れた授業改善の工夫～

全校で運動への好奇心を高める教育の推進を行
っており、その中でも授業
における学び合い活動の充
実に取り組みました。



公開授業では、ICT機
器を活用し、技を通して自
分の動きや仲間の動きを言
語化しながら伝え合う様子
が見られました。

第35回鹿児島県地区対抗女子駅伝競走大会

日時：令和4年1月30日(日)10:00スタート
場所：霧島市隼人運動場—隼人・国分コース
※ MBCテレビ・ラジオ・インターネット配信
により、実況生中継されます。

期間：令和4年2月19日(土)～23日(水)の5日間

第69回鹿児島県下一周市郡対抗駅伝競走大会

場所：県下一円
※ 南日本新聞の朝刊、ホームページ、SNS等
で大会の様子が伝えられます。

【お願い】

両大会とも新型コロナウイルス感染防止対策と
して、スタート・フィニッシュ地点や各中継所、
コース沿道での応援や観戦の自粛に御協力くださ
い。

同期の絆を深める取組 ～フレッシュ研修～

令和3年度北薩地区フレッシュ研修(研究授業
研修)は、7月2日(金)に長島町立城川内小学校
と長島町立鷹巣中学校で、10月26日(火)に阿久根
市立西目小学校と出水市立野田中学校で、新型コ
ロonavirus感染症の感染防止に可能な限り配慮
した中で実施できました。熱心な意見交換がなさ
れた研究協議後の「フリートーク」では、リラ
クスした雰囲気の中で、日頃の悩みを互いに相談
していました。「一人じゃない!仲間がいる!」と
いう思いを感じる大事な機会になっているよう
です。

教師になる夢を叶えた同期の仲間。この繋がりを
これからも大切にしてほしいです。

北薩地区子ども会大会・創作活動大会 及び指導者・育成者研修会

12月4日(土)に阿久根市の「風テラスあくね」
で開催されました。当日は、104人の子ども会
員や指導者・育成者が参加し、優良団体等の表彰式、
各子ども会の活動発表や創作活動フェスティバル、
県立霧島ふれあいセンター所長の川畑清郎氏によ
る講話がありました。

活動発表では、阿久根市牟田子ども会と出水市
政所子ども会のみなさんが、日頃の子ども会活動
の取組をスライドを基に発表しました。

また、創作活動フェスティバルでは、まが玉や
スライム、プラホビー、松ぼっくりツリーづくり
などに子ども会会員が参加し、創作活動に楽しく
取り組む姿が見られまし
た。

今回の大会では、阿久
根ジュニア・リーダーク
ラブBAMBIのみなさんが運
営スタッフとして活躍し
ました。



レッツ!ストレッチ

パソコンでの業務、タブレットを使った授業等、
長時間同じ姿勢でいることが増えてきました。簡
単なストレッチで、固まった体をちょっとリフ
レッシュしましょう。

- ① 手のひらを上に向け、両手を前に伸ばす。小
指を上に向け、腕を捻りながら上げていく。手
の姿勢をよく座をつま先とを交互に上げたり、下げ
たりする。
- ②

体罰の根絶に向けて

～怒りでは子どもに届かぬ その言動～

令和3年11月、県内の教職員が体罰を行ったとして、懲戒処分を受けて
います。体罰は指導の行き過ぎではなく単なる暴力であって、教育指導上
の効果は全くないばかりか、刑法に規定される犯罪行為です。

- ・ 体育の授業中、危険な行為をした児童の背中を足で踏みつける。
- ・ ふざけていた生徒に対し、口頭で注意したが聞かなかったため、持
っていたボールペンを投げつけ、生徒に当てる。

上記は体罰の一例です。自身の体罰に関する認識を再確認し、児童生徒
への指導で困難を抱えた場合などは個人で抱え込まず、積極的に管理職や
他の職員へ報告・相談することが必要です。令和元年度配布の「体罰防止
ハンドブック」を今一度活用し、絶対に体罰を行わないようにしましょう。

編集後記

3学期がスタートしました。地球温暖化とはいえ、寒さが身にしみ
季節になりました。冬の寒さは健康面や安全面での様々な配慮が必要
です。まずは、自分自身の縮みがちな体と心をしっかりストレッチして健
康を保ちたいものです。

連載 かがしま「GIGAスクール」推進

【端末の持ち帰り学習】

文部科学省から公表
された端末活用状況等
の実態調査(R3.7月末)
によれば、平常時の持
ち帰り学習を実施して
いる学校の割合は、全
国25.3%に対し、本
県は4.4%となってい
ます。非常時も想定した
環境整備に積極的に努
めていくことが必要で
あると思います。